

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2021.12)令和3年度:

文献検討

,

夫婦関係とメンタルヘルス(産後うつ病)に関する文献検討

田中希奈 茂手木典絵花

(指導: 巻島愛)

【緒言】

産後うつ病は一般的に産褥後期(4~6週間)に発症し、抑うつ気分、過度の不安、不眠、体重の変化を特徴とする。現在わが国では、エジンバラ産後うつ病自己評価票(Edinburgh Postnatal Depression Scale; 以下 EPDS)が産後うつ病のスクリーニングとして用いられており、産後1か月時点でのEPDS9点以上の産褥婦の割合は8.5%(平成28年度)¹⁾と、約12人に1人の割合で高得点を示している。

母親の産後うつ病の要因としては、妊娠・出産・育児への否定的な受け止め、精神的な脆弱性の他に、父親からのサポート不足、父親や家族からのストレスなどがあり²⁾、夫婦関係による影響もあることが先行研究によって明らかになっている。産後の夫婦関係の現状として、親になって3年後には、父親の約60%、母親の約70%以上が、夫婦関係が変化したと回答していた。産後に夫婦関係が悪化する要因としては、父親の育児量の少なさを母親が感じていること³⁾であった。そこで、出産、育児への父親の積極的な関わりにより、母親の精神的安定をもたらすことが期待されている⁴⁾。

以上より、夫婦関係と産後うつ病との関連性を示す先行研究を整理することで、産後うつ病予防のために、夫婦に対する支援の示唆を得ることができるのではないかと考えた。そこで本研究では、夫婦関係とメンタルヘルス(産後うつ病)に関する文献を概観し、研究の現状と今後の課題を明らかにする。

【用語の定義】

「産後うつ病」:産褥(分娩後6週間以内)に始まった軽症の精神および行動の障害で他に分類できないもの⁵⁾。

「夫婦関係」:婚姻関係に関わらない、子どもを持つ男女一組の関係。

【方法】

1.研究対象:検索データベースは医学中央雑誌 web(ver.5)、CiNii Articles、PubMed Labsを用い、検索対象期間は2021年までとした。検索式「夫婦関係」「産後うつ病」及び「夫婦関係」「メンタルヘルス」、「couple relationship」「postpartum depression」、絞り込み条件「原著論文」として検索し和文献55件、英文献243件がヒットした(2021年4月22日)。この中から、精神疾患の既往のある妊産婦・夫を対象とした文献、研究目的に合致しない文献を除いた32件(和文献15件、英文献17件)を対象とした。

2.データ分析方法:対象文献のタイトル、著者名、発行年、研究目的、研究デザイン、研究対象、研究方法、研究結果を要約し、マトリックスシートを作成した。その後、文献内容を熟読し、夫婦関係とメンタルヘルス(産後うつ病)の関連を読み解き、記述されている箇所を抽出し研究者間で確認しながら整理した。

3.倫理的配慮:論文の著作権を侵害することがないよう留意し、出典を明示したうえで、著作権法を遵守し使用した。

【結果】

1.年代別文献数

年代別文献数を図1に示した。英文献の研究者所属地域を世界の大州ごとに分類すると、ヨーロッパ州が最も多く6件、次いで北アメリカ州4件、不明3件、アジア州2件、オセアニア州2件であった。

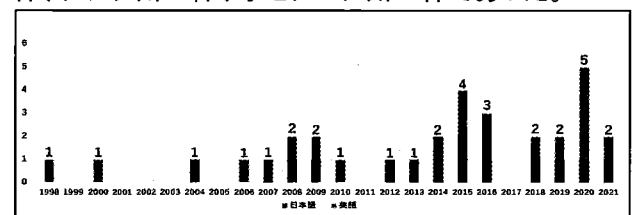


図1 年代別文献件数

2.和・英文献種類ごとの研究種類と研究対象者

表1. 和・英文献種類ごとの研究種類と研究対象者

	量	質	事例	文献	妊婦	褥婦	夫	夫婦	他
和	11	2	2	0	1	7	0	6	1
英	14	2	0	1	0	6	2	6	3

3.発表年ごとの文献内容

2005-2015年は和・英文献共に夫婦間のサポートや精神的つながりが産後うつ病に関連すること、2018年から現在までは夫婦間で感じるストレスが産後うつ病へ及ぼす影響について研究されていた。また、英文献では特に2016年から現在まで親役割の移行の過程と産後うつ病の関連について調査されていた。一方で、近年日本では、夫婦で妊娠体験を共有するプログラムが実施され、産後うつ病予防への効果が検討されていた。

4.和・英文献種類ごとの文献内容

和・英文献ともに夫婦関係への影響因子は、婚姻状況、経済的問題、機能障害や考え方の違いなどの性の問題、親役割獲得状況、夫婦間のサポート状況、夫婦関係への満足度、夫婦間で互いに抱えるストレス、夫婦の自尊感情があった。また、夫婦関係が産後の抑うつの因子になる一方で、抑うつも夫婦関係を悪化させる因子になることも明らかにされていた。また、褥婦に抑うつがあった際、受診行動をとる

ためには、パートナーからの励ましが有効であること、一度夫婦関係の質が悪くなると関係性を修復するのは困難であるという結果があり、産前教育によって夫婦関係を調整していくことや親役割の獲得を促していく必要があること、妊娠体験の共有が産後うつ病の予防に有効であることが明らかにされている。和文献では、産前教育のプログラムの有用性について調査された研究が多くみられた一方で、プログラムに参加している群と非参加群の比較研究は少なかった。

【考察】

1. 夫婦関係と産後のメンタルヘルスケアについての研究動向

研究件数は2015年から増加していた。また、2018年以降、和・英文献共にストレスが産後うつ病へ及ぼす影響について研究されていた。この背景としては、2017年頃から妊産褥婦の自殺率が高いことが注目されはじめ、研究件数の増加につながったのではないかと考える。また、その中で母子保健における心の健康は、両親の育児不安・ストレスと子どもの心の関係が大きな問題の一つとして挙げられていることで、両親のストレスとメンタルヘルスについての研究が行われ始めてきたのではないかと推察する。

2. 産後うつ病予防のための夫婦に対する支援

Abdullah A Mamunら(2009)によると、パートナー間の関係の質が悪くなると、これが長期間に及ぶことが示唆された。産後うつ病予防のための夫婦に対する支援として、パートナー間の関係の質が悪くなる前に介入することが必要である。その内容としては、夫婦関係へ影響する因子を意識した産前教育プログラムなどによって夫婦関係を調整していくことや、親役割の獲得を促していくことがあると考える。また池田ら(2013)の研究により、妊婦はまず妊娠を受け止め、出産や子育てに不安や心配を感じながらも、それを夫に相談することで、子どもへの絆を育みながら安心を得ていることが明らかにされた。そのため、産後には夫と妊娠体験の共有を促していくことが、産後うつ病の要因発生を予防することに効果的である可能性が示唆された。

3. 今後の課題

日本では、縦断的に家族の経過を追ったものや、プログラムに参加している群と非参加群の比較研究を行い、産前教育プログラムが産後うつ病の発症率を低下させるのかを調査した研究はなかった。そのため、今後は産前教育プログラムによる夫婦関係の調整が産後うつ病の予防として有用か検討していく必要がある。

【結論】

産後うつ病には、夫婦間のサポートや精神的なつながり、夫婦間で感じるストレス、親役割の移行の過程が関連することが研究されていた。今後の課題としては、夫婦関係に影響する因子を意識して妊娠期

から夫婦関係を調整していくことや親役割の獲得を促していくことが必要である。

【対象文献】

<和文献>

- 新井陽子(2014):産後うつ病の予防に対する夫婦面接の効果の検討.日本産科産婦人科研究学会誌,1(1):34-38.
長谷川まり,菅井瑞季,林美希,他(2020):新しい育児環境の構築を目指した夫婦のコミュニケーション能力の検証~産後うつ病の予防的介入プログラムの両親学級を実施して~.日本赤十字社京都第一赤十字病院医学雑誌,3(1):45-53.
福岡明日香,金井篤子,村瀬聡美(2012):母親が抑うつ的な家族の父-母-子三者相互作用の事例的検討-家族の中で父親が果たす役割-乳幼児医学・心理学研究,21(1):45-56.
池田真理,西垣佳織,上別府圭子(2013):妊婦の「妊娠体験」とそれを夫と共有することについて.心理臨床学研究,31(2):312-317.
石井佳代子,後藤あや,渡邊一代,他(2021):夫婦を対象とした妊娠期育児支援プログラムに参加した母親の4か月児健康診査時点における特徴~非参加群と比較して~.母性衛生,61(4):684-693.
岩田裕子,森恵子,坂上明子,他(2016):産後1か月時に褥婦が認識するソーシャルサポートとうつ症状.母性衛生,57(1):138-146.
岩藤裕美,無藤隆(2007):産前・産後における夫婦の抑うつ性と親密性の因果関係-第1子出産の夫婦を対象とした縦断研究から-家族心理学研究,21(2):134-145.
丸山知子,吉田安子,杉山厚子(2004):妊娠・出産後2年間の女性の心理・社会的状態に関する調査-第4報産後2年目の夫婦関係と育児および心身の状態.女性心身医学,9(1):74-81.
大関信子,大井けい子,佐藤愛(2014):乳幼児を持つ母親と父親のメンタルヘルス:夫婦愛着と自尊感情との関連.日本ウーマンズヘルズ学会誌,12(1):127-133.
大野弘恵(2008):産後のうつ状態に関する研究(第1報)-産後1か月の母親のこころの状態と夫の精神的支援との関係-愛知医科大学看護学部紀要,7:1-13.
大野弘恵(2009):産後のうつ状態に関する研究(第2報)-産後4か月の母親のこころの状態とソーシャル・サポートとの関係-愛知医科大学看護学部紀要,8:19-30.
坂野真子,中西伸子(2018):夫の妻の産後の精神状態における知識と妻の育児ストレスとの関連.奈良県立医科大学医学部看護学部紀要,14:19-27.
高木静(2015):産後2~3か月の母親の精神的健康とパートナーのソーシャルサポートとの関連-夫婦の相互評価の一致・不一致に焦点をあてて-小児保健研究,74(1):121-129.
拓殖由紀美,五十嵐裕子(2019):1歳6か月児をもつ夫婦の性別役割分業観と母親のメンタルヘルスとの関連.奈良県立医科大学医学部看護学部紀要,15:33-42.
浦山晶美,田中和子,白石佳子(2015):妊娠中における夫婦関係満足に関連する要因の検討.山口県立大学学術情報,8:1-4.

<英文献>

- Abdullah, A. M., Alexandra, M. C., Jake, M. N., Gail, M. W., Michael, J., O'Callaghan, & William, B. (2009). Maternal depression and the quality of marital relationship: a 14-year prospective study. *J Womens Health (Larchmt)*,18(12):2023-31.
Aleksandra, M., Justyna, S., Beata, G. S., & Beata, K. (2016). Incidence of postpartum depression and couple relationship quality. *Psychiatr Pol*, 50(6):1135-1146.
Alyssa, J. O., Catherine, A. C., & Janice, C. H. (2019). Couples' Experiences of Maternal Postpartum Depression. *J Obstet Gynecol Neonatal Nurs*,48(3):341-350.
Ana, F., & Maria, C. G. (2015). Women's intentions of informal and formal help-seeking for mental health problems during the perinatal period: The role of perceived encouragement from the partner. *Midwifery*, 50:78-85.
Anna, C. P., Jin-kyung, L., Tanja, A. S., Michael, W., Wilfried, D., & Nestor, D. K. (2020). Coparenting Intervention for Expectant Parents Affects Relationship Quality: A Pilot Study. *Tohoku J Exp Med*,252(1):33-43.
Ayse, A., Shari, M., & Kristen, C. N. (2010). Predictors of maternal depression in the first year postpartum: marital status and mediating role of relationship quality. *Soc Work Health Care*,49(3):227-44.
Bárbara, F., Catarina, C., Iva, T., Tiago, M. P., David, A. K., & Tiffany, F. (2018). Couples' relationship affects mothers' and fathers' anxiety and depression trajectories over the transition to parenthood. *J Affect Disord*,238:204-212.
Cindy, L. D., & Lori, R. (2006). Women's perceptions of partner support and conflict in the development of postpartum depressive symptoms. *J Adv Nurs*, 56(6):588-599.
Fabienne, M., Anne, M., Valentina, R. A., Christelle, B. F., Jan, W. N., Holger, S., W. Kim, H., & Guy, B. (2020). Decreased equity of dyadic coping across the transition to parenthood associated with depression of first-time parents. *PLoS One*,15(2):e0227342.
Kirby D. D., Kevin, P., M.Sc., Judith, F. D., & Jean, G. (1998). Family structure and depressive symptoms in men preceding and following the birth of a child. *Am J Psychiatry*, 155(6):818-23.
Leann, E.S., & Kimberly, S. H. (2008). Continuity of paternal social support and depressive symptoms among new mothers. *J Fam Psychol*,22(5):763-773.
Maiko, S., Kenji, T., Yumina, Y., & Erika, O. (2016). Effects of prenatal childbirth education for partners of pregnant women on paternal postnatal mental health and couple relationship: A systematic review. *J Affect Disord*, 210:115-121.
Marjan, K. (2015). Prevalence and Risk Factors of Relationship Dissatisfaction in Women During the First Year After Childbirth: Implications for Family and Relationship Counseling. *J Sex Marital Ther*,42(6):484-93.
Maude, J., Ylva, B., & Idor, S. (2020). Mothers' and fathers' lived experiences of postpartum depression and parental stress after childbirth: a qualitative study. *Int J Qual Stud Health Well-being*, 15(1):1722564.
Miyong, L., Yeon, S. K., & Mi, K. L. (2021). The Mediating Effect of Marital Intimacy on the Relationship between Spouse-Related Stress and Prenatal Depression in Pregnant Couples: An Actor-Partner Interdependent Model Test. *Int J Environ Res Public Health*, 18(2):487.
Rebecca, G., DClinPsy, Pauline, S., MSc, PhD, & Helen, S. (2000). Fathers' coping style, antenatal preparation, and experiences of labor and the postpartum. *Birth*, 27(3):177-84.
Zhizhou, D., Yuanyuan, W., Ping, J., Amanda, W., Yan, G., Yongliang, L., Xiaonan, Y., Renjie, Y., Shuilan, W., Zhengyan, W., Mengqing, X., Guosheng, W., Ye, T., L. Xiaohong, Ling, M., Hong, S., Jue, S., Wei, D., Yong, Y., & Runsen, C. (2020). Postpartum depression in mothers and fathers: a structural equation model. *BMC Pregnancy Childbirth*,20(1):537.

【文献】

- 1)母子衛生研究会(2020):わが国の母子保健—令和2年—母子衛生研究会,106-107.
- 2)笹野京子,松井弘美,二川香里,他(2017):開業助産師の産後うつを予測する視点とそのケア.富山大学看護学会誌,17(1):1-16.
- 3)小野寺敦子(2005):親になることとともなう夫婦関係の変化.16(1), 15-25.発達心理学研究.
- 4)厚生労働省(2019):「健やか親子21(第2次)の中間評価等に関する検討会報告書.https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000614300.pdf.
- 5)融道男,中根允文,小宮山美(1993):ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診断ガイドライン—.202.医学書院.